

短歌 (投稿順)

俳句 根岸茉莉選 投稿数 18句

畑と庭守るためひたすら草を抜く朝トラ「らんまん」大好きなわれ
 六度のコロナワクチン接種了え安堵東の間風邪流行
 悲しみは心の浅いとこにいてヒョイとしたとき顔を出すのサ
 石楠花とツツジを抜けて甲武信まで急登も癒える花のトンネル
 夏の陽の木漏れて優し美の山の散歩の道に蟬のしぐれる
 螢狩りせし友等々を偲びつつ今宵は一人窓辺に見たり
 紫陽花の花の茎まで折れるほど降る雨寂し犬の命日
 俺八十四の年男初めてだ梅雨の豪雨と連日猛暑
 獣らに予防の網をめぐらして自然は手強き今時の農
 関東の震災歴史調べればそろそろ危険時代となりぬ
 河鹿鳴く声が聞こゆる沢辺から陽射しそそぐも寂しさ覚ゆ
 太筆に墨たつぷりと含ませて板表に書す誠意をこめて
 梅雨の間の夏日に映える菖蒲園葉陰に憩う番の鴨ら
 近頃はふだん着買はず済ましをり姉の御下がり娘からお上がり
 雨降りてあつとゆうまに草だらけ畑見回わし溜息をつく
 語気強き師に気圧されて嫌悪感つのるばかりで口惜し涙

三沢 眞下 杏子
 皆野 根岸 詩子
 皆野 石原 達也
 皆野 大澤 貴夫
 皆野 萩原 初恵
 下田野沢 浅見 豊子
 下田野 新井 節子
 皆野 戸塚喜久雄
 三沢 新井 民子
 上田野沢 四方田利男
 国神 藤原マキ子
 三沢 新井 叶子
 皆野 打木 昭廣
 皆野 引間 万亀
 皆野 村田ハツ代
 皆野 太幡琉美花

草刈りて四方へ広がる風のみち
 (評)夏草は刈ってもすぐに驚く程の早さで伸びてしまします。草いきれのする暑い中、家の周りをきれいに刈払いすっきり。草の香もある涼風を受け、山を眺めながら飲むお茶の味は格別です。四方へ広がるの表現で光景が想像できる良句です。二句目、六月十九日は生きる不安や苦悩を抱えた作家太宰治の忌日。青春の作者も大人への不満や自分へのいら立ちなど色々悩みもあるでしょう。時々気分転換しながらため息を深呼吸に替えて夢に向かって進んでくださいね。三句目、窓を開けると風に乗ってラベンダーの香りがします。季節を感じ紫のさわやかな風に癒やされた作者です。

青春は深きため息桜桃忌
 皆野 太幡琉美花
 夏木立水は湧き出づ結願寺
 国神 藤原マキ子
 あいの風総身にSL音高く
 皆野 根岸 詩子
 「生きなきや」が入道雲のごとく湧く
 皆野 石原 達也
 残りもの鍋ごと委せる冷蔵庫
 皆野 引間 千鶴
 外敵を素早くかわし夏燕
 皆野 村田ハツ代
 ラベンダーの香りを運ぶ風となり
 皆野 櫻井 早苗
 ひまわりの希望のように日々過ごし
 皆野 新井 ちか
 里人の種採りを待つポピー原
 三沢 眞下 杏子
 くちなしの花見て数息坐禅かな
 皆野 小菅恭青史